

小学校でのネイチャーゲーム実践

ネイチャーゲームインストラクター 古田栄子

1, はじめに

ここ数年、学校教育現場からのネイチャーゲーム依頼が増えてきました。林間学校やレクリエーションの他に、生活科や総合的な学習の中でネイチャーゲームを体験させたいという声が届くようになりました。学校教育の場においてネイチャーゲームを活用し、子供たちの興味・関心を高めることにより、より効果的に教育目標に迫ることができます。しかし、指導者に対して児童数が多すぎたりフィールドが限られたりして活動や時間が制約されることもあります。そのような問題点にどう対応すればより良い指導ができるかを課題に、学校教育での指導体験を活かしてネイチャーゲームに取り組んできました。

以下、ネイチャーゲームの指導工夫や教職員の協力体制、また、先生方へのネイチャーゲーム入門講座のポイントについてまとめてみました。

2, 活動の実際

(1) 小学校でのネイチャーゲームの実践例

小学校「生活科」の中で、同じ子供たちを対象に2年連続ネイチャーゲームを実施した。

1回目は、小学校1年生100名を対象に生活科「もうすぐ春：春をさがそう」である。2回目は、2年生になった同じ子供たちを対象に生活科「秋をさがそう」での実施。大人数であるために、4学級を2学級ずつ、時間をずらし2回に分けて「スライド的」に交代して実施した。また、水路があることから安全面を考慮し、教師・保護者（協力）に危険箇所を立ててもらい、子供たちへの対応と安全確保に配慮した。2回に分けて実施することで、指導者にとっては大人数対策とともに、同じプログラムを2回続けて実施することで、指導法の見直しや修正ができ指導面にもプラスになった。

○実践の概要(例)

日時	平成17年3月8日(火) 1~4校時	平成17年11月18日(金) 1~4校時
対象	小学校1年生100名(4学級)	小学校2年生100名(4学級)
指導者	ネイチャーゲーム指導員4名	ネイチャーゲーム指導員5名
引率者	教師4名、保護者4名	教師4名
実施場所 環境	〔校区内にある神社の境内〕 ・ハナガカシやクスノキの大木 ・芝生広場や草地、水路有り	〔校区内にある歴史・古墳公園〕 ・古墳とシイ・カシの繁る照葉樹林 ・広大な芝生広場や花壇
活動	〈ノーズ〉〈音いくつ〉〈フィールドビンゴ〉「銘木ハナガカシの話」 8:30 1,2組学校出発	〈ノーズ〉〈ディスカバーウオーク〉 「ドングリの話」 8:30 学校出発

8:40	1,2 組活動開始	8:50	全体会 1,2 組活動開始
10:10	3,4 組学校出発		3,4 組は移動し「古墳の話・散策」
10:15	1,2 組活動終了	10:15	1,2 組終了「古墳の話・散策」
10:20	3,4 組活動開始	10:25	3,4 組ネイチャーゲーム開始
11:55	3,4 組終了	11:45	終了・全体閉会（移動）

(2)アクティビティの工夫

学校から依頼されるネイチャーゲームでは、一度に大人数を対象にする場合が少なくない。よって、実施可能なアクティビティも限られてくるが、直前まで参加人数が分からない主催事業に比べて、「事前に対象人数がはっきりしている」「学校側の協力を得られる」等のメリットもある。そんなメリットにそって大人数に対応できるアクティビティを選び、そのねらいを外さない範囲のアレンジを行った。大人数が一度に活動することで、子供たちは、発見する楽しさや発見した時の達成感をより多くの仲間と共有することでできたのではないかと思う。

● 〈フィールドビンゴ〉（大人数対応、観察・発展を意識して）

- ・〈フィールドパターン〉的要素も取り入れ虫メガネを持たせることで、観察の幅が広がり意欲を高めることができた。日頃、見落としそうな“樹皮”や“花の裏側”まで、自主的に観察する姿が見られた。
- ・下見を行い、そこで得た情報を取り入れた自作カードを用いることによってその土地・地域ならではの発見ができた。また、季節を変えて実施することで季節の違いによる新たな発見ができ、フィールドの変化に敏感になった。
- ・五感を働かせて自然を感じるとともに、あれを「先人の知恵」や歴史・文化へとつなげることができた。
- ・意識した項目一つからでも、事後の教育活動へ発展することができ、諸活動の問題提起や導入へと繋げることができた。



【グループで“4人で抱えきれない木”を探しみんなで確かめる】



【虫メガネで“顔に見えるもの”を探す】

- グループ編成によるリーダーの育成
- 他の活動と組み合わせ、ローテーションやスライド的な流れで人数分割を図る。
- 保護者の参加協力を得て、指導補助にあたってもらう。(参観日、参観週間など)
- 念入りな下見と事前の準備が不可欠!

(4)事前・打ち合わせのポイント

- 下見・聞き取り (情報収集)
- 指導員の確保 (協力者) と大人数対応
- 打ち合わせ
 - * 週1回行われる「学年会：同学年の先生の会合」の時間に実施
 - ① 日時の調整 ② 単元目標やテーマ確認 ③ 児童の実態把握と班編制 ④ ネイチャーゲーム紹介と実施方法 ⑤ 実施場所の確認 ⑥ 諸準備や指導上の支援体制確認
 - ⑦ 一緒に下見

3, 小学校の教師に伝えるネイチャーゲーム

(1)教育活動の流れの中に絡め発展させていくことでの成果

- 教科、特別活動、総合的な学習にネイチャーゲームを活用することで、教育目標により効果的に迫ることができる。
- 学級経営にネイチャーゲームを活かすことで、より良い学級作りができる。
- 児童理解に活かせる。(一年後の児童の変容)
- 教師自らが季節感ある教室設営を意識するようになり、児童の感性が育まれるとともに、季節に敏感になる。

(2)1年間の実践の流れを意識した取り組み

- ネイチャーゲームの実践をその場限りに終わらせず、1年間の実践の流れを意識して取り組むことで教育目標のめざす児童像にせまることができる。

事前 準備	当日 運営	事後	
		振り返り	発展
<ul style="list-style-type: none"> ・ 下見、聞き取り ・ プログラムづくり ・ 資料作り ・ 班編制 ・ 児童の係やリーダーの役割分担 ・ 打合せ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 運営面に児童参加 ・ めあて・約束確認 ・ 職朝で活動と場所の予告・確認 ・ 活動場所の下見と安全確認 	<ul style="list-style-type: none"> ・ アンケート ・ 日記や感想文 ・ 朝の会、帰りの会 (「スピーチ」、日記や作文紹介) ・ 写真掲示やビデオ視聴 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生活へ活かす (学校、家庭で) ・ 読書活動へ (調べ学習) ・ 家庭や地域へ発信 (通信、参観日や学習発表会) ・ 校内外の研修で同僚や学校外へ報告 ・ メディアへの児童作品投稿→地域・社会へ

4, おわりに

かつて、小学校で子供たちと環境学習や校外学習に取り組んでいた頃、いつしか芽生えた思いが「自然体験活動を通しての環境教育の必要性」だった。趣味の登山を活かして学級レクリエーションで親子一緒に山登りや自然体験活動を実施してはいたが、何か足りないと感じていた。そんな時に出会ったのがネイチャーゲームだった。まさに、「目から鱗」の心境だった。ネイチャーゲームに出会う前の環境学習は、調べ学習やメディア視聴による知識投入型だったように思う。ネイチャーゲームを知り実践を重ねる中で、校庭や身近な場所で充分自然を楽しむこと、特別活動だけでなく教科活動にも効果的に働くことが実感できた。

ますます過酷になる学校現場だが、未来を担う子供たちを日々育てている先生方が、ネイチャーゲームを知り、自らが体感した自然のすばらしさを日々の実践に活かしていくことを願ってやまない。

野山や川で暗くなるまで遊び暮らした幼少時代。記憶に残るそんな原風景の中に居るような子供たちの姿を見なくなって久しいが、少しでも野や川や海辺に子供たちの弾ける声が還ってきますようにとの願いもこめ、これからも学校でのネイチャーゲームや「入門講座」に取り組んでいきたい。